

1 液水性反応硬化形ウレタン樹脂塗料

ニッペ 水性ファインウレタンU100

多機能タイプの環境配慮形水性つや有りウレタン塗料。
内装・外装の各部位に塗装可能です。

| 防火材料認定番号 | 品目名 |
|----------|------------|
| NM-8585 | 塗料塗装/不燃材料 |
| QM-9816 | 塗料塗装/準不燃材料 |
| RM-9364 | 塗料塗装/難燃材料 |

| | |
|------------------|-------|
| ホルムアルデヒド 放散等級 | F☆☆☆☆ |
|------------------|-------|

特長

①優れた付着性

1液水性反応硬化形なので、密着性にすぐれています。

②優れた作業性・仕上り性

隠ぺい性に優れ、作業性・仕上りの両面を兼ね備えた高級品です。

③環境にやさしい水性塗料

水性塗料のため臭気も少なく、安全にお使いいただけます。

④透湿性

塗膜には透湿性がありますので、膨れや剥離を抑制します。

⑤防藻・防かび性

藻やかびの発生を防止する効果があり、美観維持に役立ちます。
強力防かびタイプのオプション付与が可能です。

⑥幅広い塗り替え適性

外壁・鉄部などの新設・塗り替えと幅広く使用できます。

用途

戸建住宅・マンション・商業施設など
臭気配慮が必要な内・外壁面の新設・改修塗装
内部および準外部の鉄部改修塗装

適用下地

新設適用下地：コンクリート・モルタル・石膏ボード・ALC パネル・けい酸カルシウム板などの各種素材
改修適用下地：上記各種素材面および鉄面の各種旧塗膜

標準塗装仕様

●コンクリート面 石膏ボード面など新設塗装仕様(内部)

| 塗装工程 | 塗料名 | 使用量(kg/m ² /回) | 塗り回数 | 塗り重ね乾燥時間 | 希釈剤 | 希釈率(%) | 塗装方法 |
|------|---|---------------------------|-----------|----------|-------|--------|---------|
| 下地調整 | ごみ、未硬化セメント粉末、砂じん、油脂分などの付着物をワイヤブラシ、皮すき、サンドペーパー、ウエスなどで除去し、乾燥した清浄な面とする | | | | | | |
| 下塗り | 水性カチオンシーラー | 透明 | 0.10～0.16 | 1 | 4時間以上 | 無希釈 | — |
| | | ホワイト | | | | 水道水 | 0～10 |
| 上塗り | 水性ファインウレタンU100 | 0.13～0.16 | 2 | 3時間以上 | 水道水 | 0～10 | ウールローラー |
| | | | | | | 5～10 | エアレスプレー |

注)「水性カチオンシーラー」の塗付け量は、0.09kg/m²/回です。「水性ファインウレタンU100」の塗付け量は、0.12kg/m²/回です。
・使用量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料(希釈する前)の使用質量 ・塗付け量：被塗装面単位面積あたりの塗装材料(希釈する前)の付着質量

●コンクリート面 微弾性フィラーを用いた改修塗装仕様

| 塗装工程 | 塗料名 | 使用量(kg/m ² /回) | 塗り回数 | 塗り重ね乾燥時間 | 希釈剤 | 希釈率(%) | 塗装方法 |
|--------|---|---------------------------|------|----------|-----|--------|---------|
| 下地改修処理 | 下地改修工が必要な場合は、下地調査結果にもとづいて、塗装工事前に実施する | | | | | | |
| 下地調整 | 活膜は残すが、せい弱化した塗膜の表面および影れなどは入念に除去する。下地を十分に乾燥させ、よごれ、付着物などを除去し、サンドペーパー・ウエスなどで清浄な面とする。外壁の場合、粉化物、付着物などは高圧水洗機を使用し、除去清掃を行う。 | | | | | | |
| 下塗り | パーフェクトフィラー | 0.50～0.90 | 1 | 4時間以上 | 水道水 | 1～5 | 砂骨ローラー |
| | | 0.20～0.45 | | | | 3～8 | ウールローラー |
| 上塗り | 水性ファインウレタンU100 | 0.13～0.16 | 2 | 3時間以上 | 水道水 | 0～10 | ウールローラー |
| | | | | | | 5～10 | エアレスプレー |

※ニッペパーフェクトフィラーをローラー施工する際に、高温時や風が強い場合などの乾燥が進むような条件下では、希釈率を上限値の範囲内で調整することを推奨します。(作業性や仕上りの向上を更に図ることができます。)
※上記下塗り以外に、アンダーフィラー弾性エクセルも使用できます。

●一般鉄部改修塗装仕様(内部・準外部)

| 塗装工程 | 塗料名 | 使用量(kg/m ² /回) | 塗り回数 | 塗り重ね乾燥時間 | 希釈剤 | 希釈率(%) | 塗装方法 |
|------|--|---------------------------|------|-----------|----------|--------|------------|
| 下地調整 | 膨れたり、割れたり、浮いている劣化塗膜、さび、付着物などをワイヤブラシ、ケレン棒、電動工具などで除去し、乾燥した清潔な面とする。 | | | | | | |
| ※下塗り | 1液ハイボンファインデクロ | 0.13～0.15 | 1 | 4時間以上7日以内 | 塗料用シンナーA | 5～10 | はけ・ウールローラー |
| | 水性ハイボンプライマー | 0.13～0.16 | 1 | 4時間以上7日以内 | 水道水 | 0～5 | はけ・ウールローラー |
| 上塗り | 水性ファインウレタンU100 | 0.13～0.16 | 2 | 3時間以上 | 水道水 | 0～10 | はけ・ウールローラー |
| | | | | | | 5～10 | エアレスプレー |

※上記下塗り以外に、ハイボン20デクロ、ハイボンファインプライマーII、パーフェクトプライマーなども使用できます。
※さびが発生しやすいエッジ部もしくはさびが発生している箇所を塗装する場合、入念なケレン後、下塗り塗料(さび止め塗料)で部分補修塗りしてから下塗りしてください。
下塗りに「水性ハイボンプライマー」を選択するとオール水性鉄部仕様となります。

※上記の数値は、すべて標準のもので、被塗物の形状、素地の状態、気象条件、施工条件によりそれぞれ多少の幅を生じることがあります。

塗料の塗り重ねは所定の塗り重ね乾燥時間を守ってください。(縮み、割れ、乾燥不良、付着不良などが起こります)

※カタログに記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されております。

特別な環境が想定される施工現場・部位に塗装される場合は、事前に必ず営業までご相談いただけますようお願いいたします。

※旧塗膜は、健全な状態であることを想定しています。

ニッペ 水性ファインウレタンU100

標準塗装基準

| 塗装方法 | はけ・ウールローラー塗り | エアレススプレー塗り |
|------|-------------------------------|-------------------------------|
| 希釈率 | 0～10% | 5～10% |
| 使用量 | 0.13～0.16kg/m ² /回 | 0.13～0.16kg/m ² /回 |

- 上記の各数値は標準の数値です。被塗物の形状、素地の状態、希釈率および測定機器・測定方法により増減します。
- 上記の使用量は、記載の塗装方法で標準的に使用する量を記載しています。必要に応じ、所定の使用量・膜厚になるように使用量・塗り回数を調整してください。
- 塗付け量は、0.12kg/m²/回です。
- 使用量：被塗表面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の使用質量
- 塗付け量：被塗表面単位面積あたりの塗装材料（希釈する前）の付着質量

塗り重ね乾燥時間

| | 5～10℃ | 23℃ | 30℃ |
|--------|-------|-------|-------|
| 塗り重ね乾燥 | 8時間以上 | 3時間以上 | 2時間以上 |

乾燥時間は目安です。使用量、通風、湿度および素地の状態によって異なります。

容量・荷姿

| 塗料名 | 系統 | 容量 | 色相 | つや |
|-------------------|--------------------|-----------|----|--|
| ニッペ水性ファインウレタンU100 | 1 液水性反応硬化形ウレタン樹脂塗料 | 15kg、4kg* | 各色 | つや有り、7分つや有り、5分つや有り、3分つや有り（淡彩のみ）、つや消し（淡彩のみ） |

*4kgは原色と調色のみ

施工上の要点と注意事項（詳細な内容については、各製品の製品使用説明書などにてご確認ください。）

- 蓄熱しやすい建材（軽量モルタル、ALC、業装サイディング、発泡ウレタン使用建材など）を使用し「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン、弾性スタッコ、アクリルコップなどの場合、塗り替え段階ですでに旧塗膜が割れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗布する場合は、蓄熱、水分、下地の状態、塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形、塗膜の膨れ、はく離が生じることがありますので、最寄の営業所などにご相談ください。
- つや調整品は、はけ、ローラーでの塗装はむらが出やすくなりますので、スプレー塗装をおすすめいたします。
- つや調整品では、塗り継ぎや補修でつやむらが出やすいため、面を切って通しで塗装してください。
- 過剰希釈をするなど本来のつやが発現しないおそれがありますので、規定の希釈量をまもってください。
- つや調整品は被塗物の形状、素地の状態、膜厚、色相、塗り重ね乾燥時間などにより、実際のつやと若干違って見える場合がありますので、事前に試し塗りをして確認してください。
- つや調整品は、使用中にも塗料が分離しやすい場合がありますので、適宜かきはんしながらご使用ください。
- 防藻・防かび効果は、繁殖を抑制するものです。すでに繁殖している場合は、下地処理として除去および殺菌処理をしてから塗装してください。
- 被塗物の構造、部位、塗装仕上がり形状、環境条件などの影響で、本来の低汚染機能が現れない場合があります。
- 蓄し汚染が発生しそうな箇所は、状況に応じてニッケルリスタコートをお使いください。
- 絶えず結露が発生するような用途、場所での使用は避けてください。蓄し結露が発生する場所では、塗料中の水成分が表面に滲出し、黄色い粘着物などとなって析出するおそれがあります。蓄し結露が予測される場合は、塗装を避けるか、溶剤系塗料での塗装をおすすめします。
- 塗装後、乾燥不十分な状態で降雨結露などが発生した場合、低温、高湿度、通風のない場合には、膨れ、はく離、割れ、白化、シミが発生するおそれがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後拭き取って除去してください。
- 色相によっては降雨、結露によってぬれ色になる場合がありますが、乾燥すると元に戻ります。
- 乾燥後の塗膜に付いた汚れは、シンナーなどの溶剤では拭き取れず、せっけん水で洗浄してください。
- スプレー塗料の先端は、ときどき水洗いをしてください。作業効率の低下および塗りむらの原因になります。
- 乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じる場合がありますが、時間とともになくなります。
- 反応硬化タイプの塗料のため、使用後のほねなどはできるだけ早く水で洗浄してください。固まった場合は、すみやかにラックシンナーで洗浄してください。
- 動物はけは、はけが固まったタマになりやすいので、できるだけナイロンはけをご使用ください。
- 編織壁、耐火被覆用いけカルシウム板、ロックワールなどの非常に弱い素材には塗装できません。
- 旧塗膜に発生した藻・かびは、洗浄などにより除去し、清浄面としてください。付着耐害をおこすおそれがあります。
- 内壁塗りの替えにおいて旧塗膜が OP、FE などの油性系の場合、研磨剤を行ってください。下地処理が不十分な場合は、塗膜はく離の原因となります。
- 既存塗膜のはく離箇所は、既存塗膜の塗装仕様でバターン合わせを行ってください。
- 高化面・吸込みの蓄し汚染は、ニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ液浸透性シーラー、ニッペファイン浸透性シーラーをご使用ください。
- 塗り替え時のシーラーは、ウルトラシーラーまたは水性カチオンシーラーをご使用ください。溶剤系シーラーのご使用は、旧塗膜の種類によっては溶剤膨れを生じさせることがあります。
- シーリングの上に、劣化、ひび割れなどの損傷がある場合は、打ち直しをしてください。
- タイル面の洗浄に使用する薬剤が塗膜面に付着すると、変色や早期劣化などを生じることがありますので、この様な場合には薬剤が付着しない様に塗膜面の養生を行ってください。
- 素地表面のアルカリ度は pH10 以下、表面含水率は 10% 以下（ケツ科学社製 CH-2 型で測定した場合）、または 5% 以下（ケツ科学社製 H1500 シリウス；コンクリートレンジで測定した場合）の条件で塗装してください。
- 表面のぬれ、ほこり、エプロレッセンス、レイタンスなどは除去し、目隠し、ジャンカ、コールドジョイントなどは、樹脂入りセメントモルタルで平滑にしてください。
- ALC 面、多孔質下地、コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整材（ニッペ1材カチオンファイバー、ニッペファイバー 200）などで処理してください。（合成樹脂系マニッシュパテの使用は避けてください）
- 内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。
- 素材にセメント成分などが使われている場合は、エフロレッセンスが発生するおそれがありますので溶剤系シーラーをご使用ください。
- 新設の押出成形セメント板、GRC 板、フレキシブルボードなどは、下塗り材としてニッペ浸透性シーラー（新）、ニッペ液浸透性シーラー、ニッペファイン浸透性シーラーをお使いください。
- 塗装後から建築人が触れるようなドアの一部や手すりなどは、皮膚の刺激により塗膜表面の軟化が起こるおそれがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行ってください。
- カウチナー、陳列棚、ベンチ、床面などものが常時置かれるような場所には跡がつくおそれがありますので塗装しないでください。
- 塗装場所の気温が 5℃未満、もしくは湿度 85%以上である場合、または換気が十分でなく結露が考えられる場合、塗装は避けてください。
- 屋外の塗装で降雨、降霧のおそれがある場合、および強風時は塗装を避けてください。
- 塗装時および塗料の取り扱いは、換気を十分にを行い、火気厳禁にしてください。
- 飛散防止のため必ず養生を行ってください。
- シーリング面の塗装は、塗膜の汚染、はく離などの不具合を起こすことがありますので、原則としてニッペスーパーフェクト NB シールを除き行わないでください。やむを得ず行う場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行うものとし、塗り重ねる適合性を確認し、必要な処理を行ってください。また、ニッペブリードオフプライマーを下塗りすることで、可塑剤移行による汚染の低減が図れますが、シーリング材の種類、使用条件などによりはく離、収縮割れが起こることがあります。
- 笠木、天端など長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化、膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートでの設置方法などに配慮し、換気を促してください。
- 薄めすぎは剥げれ不足、仕上がりが不良などが起こるため規定範囲を超えて希釈しないでください。
- 上塗りに汚れたエイロー、レッド、ブルー、グリーン系色相を使用する場合は、共色を下塗りしてから塗装してください。なお、特に汚れた色相では、共色を下塗りしても標準の使用量、塗装回数で剥げれ出来ない場合があるため、事前に試験塗塗り塗り板等をご確認ください。
- 調色には必ず当社専用の原色をお使いください。
- 濃彩色や汚れた原色の場合、塗膜を強く擦ると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性がある部位には使用しないでください。なお、状況により常時接触するような箇所を使用する場合は、ファインシリコンフロッグクリヤーを上塗りし塗装してください。クリヤーのローラー及び刷毛塗装で、下塗り塗膜の再溶解や滲みが発生する場合には、スプレー塗装をしてください。
- 大面積の塗装では補修部分が目立つことがあります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの条件を同一にしてください。
- はけ塗り仕上げのローラー仕上げが混在する場合は、使用量、表面肌質異なるため若干の色相差がでますので、はけ塗りの部分には希釈を少なくして塗装してください。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により、色相や仕上がりが異なって見えることがあります。
- 塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りはできる限り入り隅まで入れてください。
- 汚れ、きずなどにより補修が必要な場合があります。使用塗料のロットは必ず控えておき、補修の際は塗料ロット、希釈率、および補修方法などの塗装条件を同一にしてください。
- ローラー、はけなどは、ほかの塗料での塗装に使用すると、はじきなどが発生するおそれがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。
- 可塑剤が多含まれる塩ビフィルム、塩ビラミネート、プラスチック、ゴムパッキン、合成皮革、塩ビクロスなどへの直接塗装はお避けください。また、これらの部材に塗膜が直接触れることがないようご注意ください。
- 平滑仕上げや鏡面仕上げの場合は、素材や素地の状態によって、吸込みや巣穴によるピンホール、凹凸などを防止するため、パテ工程や研磨工程が必要になる場合があります。
- 塗料は内容量が均一になるようによくかき混ぜてください。特につや調整品では、つや消し剤が沈降している場合がありますので、よくかき混ぜて均一にしてください。また、よくかき混ぜて均一にしてください。
- 開封後一度に使い切ってください。やむを得ず保管する場合は密閉してから冷蔵して保存し、速やかに使い切ってください。
- 大気中の浮遊鉄成分が多い地域では、この鉄成分が塗膜表面に付着し、塗膜が赤褐色に変色したように見える場合があります。
- 塗料漏洩の原因になりますので、保管・運搬時に容器を横倒しにしないでください。
- 製品の安全に関する詳細な内容は、安全データシート（SDS）をご参照ください。

安全衛生上の注意事項

ニッペ水性ファインウレタンU100白

- 本来の用途以外に使用しないでください。
- 使用前に取扱説明書を読み取ってください。
- すべての安全注意を読み解するまで取り扱わないでください。
- 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないでください。
- 取扱後は、手洗いおよびうがいを行ってください。
- この製品を使用する際、飲食または喫煙をしないでください。
- 屋外または換気の良い場所でのみ使用してください。
- 必要な時以外は、環境への放出を避けてください。
- 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面罩をご着用ください。
- 気分が悪い時は、医師に連絡してください。
- 口をすすいでください。
- 容器からこぼれた時は、砂などを散布した後処理してください。
- 吸入した場合：気分が悪い時は、医師に連絡してください。

- 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させてください。
- 眼に入った場合：水で数分間注目を深く洗ってください。次に、コンタクトレンズを専用液で洗い流す場合は外してください。その後洗浄を続けてください。
- ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けてください。
- 眼の刺激が続く場合は：医師の診断/手当てを受けてください。
18. 施設にて保管してください。
- 直射日光や水濡れは厳禁です。
- 容器は、つり上げないでください。やむを得ずつり上げるときは、適切な手段で、垂直に持ち上げ、落下に十分注意してください。（荷重になること取っ手が外れ、落下事故の危険があります。）
- 塗料等の缶の積み重ねは3段までとしてください。

横倒禁止

- 日光から遮断し、換気の良い場所で保管してください。輸送中も 5℃以上の温度にばく露しないでください。
- 容器、塗装具などを洗浄した排水は、そのまま地面や排水溝に流すと環境に悪影響を及ぼすおそれがありますので、排水処理場などの施設に持ち込むか、産業廃棄物処理業者に処理を依頼してください。
- 内容物/容器を/地方自治体の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。

*上記の表示は一例です。色相などにより、容器の表示と異なる場合があります。
 ■詳細な内容、表示以外の商品については、安全データシート（SDS）をご参照ください。
 ■本製品は日本国内での使用に限り、輸出される場合は事前にご相談ください。

| 警告 | 危険有害性情報 |
|----|--|
| | 強い眼刺激/吸入すると有害/生殖能または胎児への悪影響のおそれ/臓器の障害のおそれ（単回ばく露） 水生生物に有害/長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ |

日本ペイント株式会社

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 北海道支店 ☎011-370-3101 | 近畿支店 ☎06-6455-9608 |
| 東北支店 ☎022-232-6712 | 中国支店 ☎082-281-2180 |
| 関東支店 ☎03-5479-3614 | 四国支店 ☎0877-56-2346 |
| 北関東信越支店 ☎03-5479-3614 | 九州支店 ☎092-751-9861 |
| 中部支店 ☎052-461-1960 | |

- 本カタログの内容については、予告なしに変更する場合がございますのであらかじめご了承ください。
- 本カタログ中の製品名・会社名は、日本ペイントホールディングス株式会社または日本ペイント株式会社・その他の会社の、日本およびその他の国の登録商標または商標です。
- Copyright 2018 NIPPON PAINT Co., Ltd. All rights reserved.
- 日本ペイントホームページ <http://www.nipponpaint.co.jp/>

カタログNo.
NP-W177
UD181206T
2018年12月現在